

アート時間

4 時間目

普段着で アート鑑賞

作家たちが自ら運営する工房やギャラリー、美術館、サロンなど、個性的なスポットが市内の身近なところに点在しているのをご存知ですか。陶芸作品や漆器、音楽など芸術と親しめる場所をご紹介します。



「美」は暮らしとともにある 奥内陶芸美術館（岡町北）



阪急岡町駅にほど近い住宅街にたたずむ奥内陶芸美術館。日本を代表する思想家である柳宗悦（1889年～1961年）らにより、大正15年（1926年）に提唱された「民藝運動」に共感した美業家の故奥内豊吉氏が、昭和47年（1972年）に開設した私設美術館です。「民藝運動」は、民衆の暮らしから生まれた手仕事の温かみを慈しみ、生活の用に則した「健全な美」と表現、新しい美の価値観を提示するとともに、真の暮らしの豊かさとは何かを問いかけるものでもありました。



「民藝」の巨匠・濱田庄司の作品50点以上が並ぶ展示室もあります

使う場面を想像すると興味が湧いてくると思います。今後は、展示作品で実際にお茶を飲むなどの体験も考えています。作品本来の使い方で見える美しさを感じてもらえたら、暮らしを豊かにする心のゆとりも生まれるのではないのでしょうか」と美術館の奥内史恵さん・佐々木昌子さん。

Here
岡町北3-8-1 電話:06-6852-3842
開館時間/10時～16時
休館日 /月・土・祝日、12月20日～翌1月10日
入館料 /大人300円、学生200円

散歩ついでに立ち寄ってみては お工房（緑丘）



常設の作品の数々
竹内さんの人柄とセンスが感じられます

閑静な住宅地の中、可愛い金工細工の花が目印の「お工房」。入口へ続く2階へのアプローチではモダンなシーサーたちが出迎えてくれます。自宅に併設された工房とギャラリーは、オーナーであり陶芸作家の竹内美佐央さんが、お伽犬が好きなことから命名。回遊式でつながる窯、工房、ギャラリーは開口部が大きくとられ、自然の光がふりそそぎます。

作家に依頼して開催。作家自らの作品解説を聞くことができる時間を用意することもあるとのこと。「暮らしを豊かにしてくれる作品に触れ、アートを身近に感じてもらう機会になればと思っています。作品へのこだわりや苦労話を聞かせていただくことで作品を見る目も深まっています」と竹内さん。「陶芸の体験もできます。普段の生活では自己主張は控えてしまつけど、アートの表現としてなら思い切って自分を出すことができます。鑑賞する楽しみ、作る喜びを味わっていただけたら嬉しいです。」



Here
緑丘2-8-9 電話:06-6855-9870
ギャラリー:教室のある日はオープン。その他は事前に連絡を。
陶芸教室:火・水・木・日の10時～13時

まちにあふれ出るクラシックの音色 ノワ・アコルデ音楽アートサロン (服部本町)

子どもの頃から音楽が大好きだったというオーナーの平井悦子さん。亡き夫がクラリネット奏者だったこともあり、結婚後はクラシック音楽の魅力にさらさら感じるようになったそうです。墨彩・鉛筆画家でもある平井さんは、大好きなクラシック音楽とアートを同時に楽しめる場所をつくりたいと平成18年（2006年）にこのサロンをオープン。ユニークな企画をしている小さな音楽スペースとして音楽専門雑誌にも紹介されています。名前の由来は、子どもの頃、近くにあった「フルミ市場」から発想。ノワ・アコルデとは、フランス語で「調和したフルミたち」という意味だそうです。名前にも生まれ育ったこのまちへの思いが宿ります。

地位も立場も超えて、音楽を通じて誰もが互いに刺激を与えあい、交流できればと思います。音楽を愛する人を支え、音楽のあふれるまちにしたい。その志に引き寄せられて、多くの人が出会い、つながる場となっています。

数々の絵画が飾られたサロンでは、ピアノの音楽家によるコンサートのほか、音大生の演奏会、60歳からピアノを始めたシニアによる発表会さらには著名な音楽家による公開レッスン付きのコンサートなど、音楽好きにはたまらない魅力的な企画がたくさん。多くの人に音楽を通じた交流をしてみたいという平井さんの熱い思いと人脈の賜物です。「ここでは、国籍や年齢、社会的な

Here
服部本町2-5-24
問合せはノワ・アコルデ事務所(服部本町1-8-20)まで
電話:06-6862-8855(月火木金の10時～17時)
FAX:06-6868-0595
メール:nowa-aco@music.email.ne.jp
サロンの見学は事前に連絡を。



バロック時代、貴族に愛好された優雅な楽器「プレミッシュ2段鍵盤チェンバロ」を常設